

49

過去10年間における当院で見つかったE型肝炎

◎横山 孝治¹⁾、山田 恵美子¹⁾、松本 朋恵¹⁾
福井県済生会病院¹⁾

【はじめに】

2018年1月、日本赤十字社より 輸血用血液製剤でE型肝炎ウイルス「HEV」に感染した事例が報告された。本事例は劇症肝炎にて死亡に至っている。また、当院でも本年度2例のE型肝炎患者が新たに見つかった。そこで、過去10年間における当院で確認されたE型肝炎の症例を、経過と感染経路について報告する。

【症例】

2008年～2018年に発覚したE型肝炎、6症例。すべて男性。輸血歴なし。主訴は、全身倦怠感が3症例と肝機能障害が3症例である。すべての症例で来院時の採血にて、肝逸脱酵素の著明な上昇を認めている。

【感染経路】

輸血歴や海外渡航歴はなく、ホルモンの摂取やイノシシ肉を食べたという患者からの報告があり、よってこれらが感染源となり得ると考えられる。

【まとめ】

E型肝炎の感染経路は、加熱不十分なブタ、イノシシ、シ

カ等の生肉の摂取による経口感染が主である。しかし、輸血による感染も報告されている。原因不明の急性肝炎として、E型肝炎も考慮することが、必要である。

0776-23-1111